

令和6年度 学校評価シート

アンケート回答選択肢:よく当てはまる＝4点、ほぼ当てはまる＝3点、
あまり当てはまらない＝1点、当てはまらない＝0点
評価の点数について、素点平均＝4～0の評価の平均値（4点満点）
達成率＝素点平均×100／4（100％表示）

達成率	評価
80％以上 100％以下	A
60％以上 80％未満	B
40％以上 60％未満	C
20％以上 40％未満	D
0％以上 20％未満	E

I 職員による自己評価

領域		評価の観点	実践目標	達成	評価	成果・課題・改善策
学校運営	1	開かれた学校づくり	学校は、「学部・学年・学級通信」や「保健だより」、「みみだより」、「進路通信」、「寄宿舍だより」などを発行することで保護者・子どもたち・関係諸機関の方々などへの適切な情報発信ができている。	90	A	2. 学校や育友会の活動の様子を共有するため、メール配信等を定期的に行い、今後も理解に繋げる。 3. 一目で情報が分かるように改善を行った。引き続き、検討委員会でホームページについての話し合いを行い、見やすいホームページ作成を行っていく。
	2		学校は日頃から育友会との連携を図り、学校の教育活動の理解を促すよう努めている。	84	A	
	3		学校のホームページは適切で分かりやすく興味ある内容になっている。	74	B	
	4		学校は教育相談・通級・研修会の講師派遣等、地域のセンター的機能を果たしている。	83	A	
	5	進路指導 キャリア教育	学校は卒業後の社会参加や自立に必要な力を身につけるため、幼児から発達段階に応じた進路学習（自立に向けた学習）を行っている。	74	B	5. 卒業後が見据えられるように、中学部、高等部を対象に卒業生を招いた講演会を開催している。今後は教員が企業等の話を聞き、幼児児童生徒の進路学習に活かせるようにしていきたい。
	6		個別の教育支援計画は、担任と保護者の話し合いで子ども一人一人の目標に基づいてつくられている。	81	A	
	7	教職員の 資質向上	学校は研究授業や公開授業、研修会などを計画的に実施し、指導力の向上に努めている。	79	B	7. 8. 研究研修 研究授業、公開授業の情報を掲示板等活用して情報共有し、参観しやすい環境づくりをする。 また手話学習や研修を通して、聴覚障害の専門的な知識および具体的な例を職員相互で高め合えるようにする。また研修の内容は、時代に即したテーマとなるよう検討していく。 9. 情報図書 指導者用端末を導入したことにより、タブレット端末の活用が促進した。今後は、指導者用端末のアプリの活用方法や生成 AI などの活用について教職員に伝えていくことで、活用の幅を広げていく必要がある。 10. 人権教育に関する教職員研修を実施し、教職員が正しい知識をもち人権意識を高められるように取り組んだ。
	8		学校は聴覚障害の専門性について職員相互で高め合っている。	74	B	
	9		学校ではICT機器が充実し、授業や校務での活用の幅が広がっている。	78	B	
	10		学校では人権教育研修や人権啓発資料等を通じて、教職員の人権意識を高め、教職員自ら主体的に人権感覚を養っている。	73	B	
	11	危機管理 体制の整備	学校は子どもたちが安全に過ごせる環境をつくり、事故を防止するための適切な配慮を行っている。	78	B	11. 定期的な安全点検の実施と共に、未然防止の意識をもち、ヒヤリハット事案は共有するようにしている。 12. 個人情報に関する研修会を開いたことで、学校全体の個人情報に関する意識が高まった。今後も定期的にこのような研修会を開き、個人情報に関する意識を高めていく必要がある。 13. 次年度不審者対応として防犯教室を実施予定。いじめ防止マニュアルなどに沿って、有事の時は指導を行っている。 14. 日常的な換気を実施し、感染症情報などを共有し予防対策を行っている。
	12		学校は危機管理意識がある。（個人情報の管理、不審者対応など）	73	B	
	13		学校は子どもたちの問題に組織的に取り組める体制が確立している。	72	B	
	14		感染症等予防対策について、教職員間で共通理解し、状況に応じた最善の対策をしている。	79	B	
	15	関係諸機関との連携	学校は医療、福祉、教育、労働等の諸機関と連携する機会を持ち、子どもたちや保護者への支援に活かしている。	82	A	15. 個々のニーズに応じ、引き続き関係機関との連携を図っていく。
	16	学部・学年運営	学校では保・幼・小・中・高の学部間や寄宿舍との連携、校務分掌部間の連携ができている。	66	B	16. 定期的な連絡会議を継続し、建設的な意見を取り入れて柔軟な体制を築いていく。
	17	校内支援	学校はいじめの未然防止を図りながら、いじめの早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合に迅速かつ適切に対応している。	79	B	17. 学期に一度学校生活アンケートを行い、内容によっては担任や生徒指導部で聞き取りを行うなどしている。 19. 本人のニーズを引き出し補聴器や人工内耳の調整をする。実態を正しく把握し、個に合わせたアドバイスにつなげるよう努める。 20. 各学部で教員同士が情報を共有するように心がけている。今後は担任だけが情報を抱えることがないよう、努めていきたい。
	18		学校は子どもや保護者の学習や生活面の悩みに対して個人面談などを行い、適切な指導をしている。	82	A	
	19		学校は補聴器・人工内耳の装着、また言語発達や就学に関する相談に対して、個に応じて適切なアドバイスができている。	78	B	
	20		学校は子ども一人一人の進路（就学）において、情報を共有し組織的かつ適切な対応ができている。	79	B	
	21	合理的配慮	学校では子ども一人一人の障害や特性に対して、合理的配慮が提供できている。	79	B	21. 合理的配慮についての説明を職員に向けて実施した。さらに周知できるよう努める。

	22	校務処理	学校では勤務時間の適正化が図られている。	64	B	22. 23. 教育課程に沿った行事の精選を行い、教育活動の充実を図ることが勤務の適性化、公務の合理化の改善につながりつつある。
	23		学校では校務の合理化が図られている。	66	B	
教育課程	24	個に応じた学習指導	学校は個別の指導計画を基に、子ども一人一人の障害に配慮した教育活動を行っている。	81	A	24～26 (保) 発達や障害特性に応じて、保育目標、保護者支援の内容について検討し、チームで保育の質的向上に努めている。さらに、個に応じた取り組みを深める。 (幼) 重複児に対して椅子、机など、本児に合った物を用意したり、保育内容を検討したり、合理的配慮を行っている。 (小) 児童の様子について、小学部全職員、関係職員で情報交換し、その児童に応じた支援・指導方法を考えるよう努めている。 (中) 生徒個々の障害特性や発達段階、学習に取り組む様子など職員間で共通理解を図りつつ、効果的な指導方法を考えながら学習指導を行っている。 (高) 個々の生徒の状況について職員間での情報交換を密にし、指導実践に生かしている。
	25		学校は重複障害の子どもに対して、障害の特性に応じた適切な指導を行っている。	78	B	
	26		学校は子どもたちが主体的に学習に取り組める場面を設定し、学びを深めるような授業を行っている。	73	B	
	27	行事・教育活動	学校は子どもたちが主体となる行事や教育活動の充実に努めている。	78	B	27.精選した行事の目的や教育的効果をさらに見直し、幼児児童生徒の主体性や創造性を十分に引き出せる工夫や改善を図る。
課題教育	28	防災・安全教育	学校はより具体的な災害状況を想定した実践的な防災訓練及び定期的な防災学習を行っている。	81	A	28.様々な災害を想定して、児童生徒が関心を持ち、自分にできることを考えられた。定期的な訓練を継続していく。 29. 今年度小中高を対象に交通安全教室を行い、生徒たちに交通ルールの遵守や安全な行動を促した。
	29		学校は交通事故防止などの安全教育を行っている。	76	B	
	30	人権教育	学校は生命を大切にし、人権を尊重した教育を行っている。	79	B	30. 道徳、総合などの授業を中心に教育活動全般において各学部に応じた人権教育を実施している。また本年度は教職員向け人権研修として、北朝鮮による拉致問題を取り上げた。幼児・児童・生徒の人権意識の向上に還元できるよう、来年度も教職員研修の充実を目指す。
	31	食育	学校給食を通して食生活や食事のマナーなど望ましい食習慣の指導を行っている。	82	A	31.学校給食を生きた教材として活用し、教職員と連携して食育の推進を図る。
平均値				77	B	

2 中学部・高等部の生徒による評価

	設 問	達成率	評価
1	予習・復習などの学習習慣が身についている。	59	C
2	宿題や課題をきちんとやって、期日までに提出している。	79	B
3	授業中は、先生の話をよく聞いている（見ている）。	81	A
4	授業の内容は、よく理解できる。	77	B
5	先生の話（手話）は、よくわかる。	85	A
6	中間考査や期末考査の前には、計画を立てて一生懸命勉強している。	63	B
7	学校や学部のきまりをきちんと守って、生活している。	90	A
8	携帯電話やスマートフォンは、ルールを守って使っている。	92	A
9	交通ルールや電車・バスの中でのマナーを守っている。	95	A
10	掃除の時間は、まじめに取り組んでいる。	89	A
11	学校の備品や施設を大切に使っている。	94	A
12	自分から積極的にあいさつをしている。	81	A
13	先生や先輩とは敬語を使って話をしている。	72	B
14	いじめの問題が起きないように、相手の気持ちを考えてみんなと仲良く行動している。	88	A
15	日番や週番など、当番の仕事を怠けずにきちんとやっている。	90	A
16	部活動に熱心に取り組んでいる。	83	A
17	文化祭や修学旅行、校外学習などの行事に、まわりと協力して取り組んでいる。	90	A
18	防災の学習や、講演会（SNS、性教育など）によって、自分の生活を見直したり考え方を変えたりしたことがある。	82	A
19	進路の講演会で卒業生話を聞き、自分の進路を考える上で参考になった。（中学部3年～高等部3年）	77	B
20	悩んだり困ったりした時に、相談できる友だちや先生がいる。	84	A
21	勉強のことや友だちのことについて家の人と話をする	62	B
22	授業や学校生活の中で、感染症等防止対策（マスク着用、消毒、換気等）がきちんとできている。	77	B
23	この学校に入学して良かったと思っている。	82	A
	平均値	81	B

3 保護者による評価

	設 問	達成率	評価
1	お子様は学校に楽しく通えている。	83	A
2	学校は学校・学部・学年の目標や方針がわかるように提示している。	80	A
3	学校は配付物やマチコミ、ホームページなどで適切に情報発信をしている。	85	A
4	授業・保育は楽しくよくわかるように工夫されている。	84	A
5	学校はお子様の成長の様子や課題などをわかりやすく伝えている。	83	A
6	学校は学んだことを家庭で取り組めるような指導ができています。	89	A
7	お子様は学校生活の様子を家庭でよく話題にする。	84	A
8	宿題はお子様にとって適切な量である。(小・中・高)	73	B
9	お子様は家庭でよく勉強している。(小・中・高)	37	D
10	学校は部活動などの課外活動に積極的に取り組んでいる。(小・中・高)	74	B
11	学校は挨拶やルールを守る指導をしている。	86	A
12	学校は本人や保護者の願いや思いをきちんと受け止めている。	84	A
13	学校は防災や不審者侵入などの安全対策を実施している。	82	A
14	学校はいじめのない学校づくりに取り組んでいる。	86	A
15	お子様は学校行事を楽しみにしている。(または、「親子とも楽しめる保育や行事を企画・運営している。」)	88	A
16	学校は進路(進級を含む)に関する情報提供を適切に行っている。	82	A
17	学校は家庭・地域・医療との連携・協力が図れている。	73	B
18	学校は感染症等防止対策を適切に行い、安心安全な学校づくりに取り組んでいる。	83	A
19	お子様を本校に入学させて良かったと思う。	89	A
平均値		80	A

4 学校評議員による評価

	設 問	達成率	評価	成果・課題・改善策
1	本校の教育は保護者や地域の期待に応えている。	75	B	・本校での教育活動は、0～18 歳までの幅広い年齢層、障害の特性も個々に違っていて専門性がそれぞれに必要で、日々の先生方の研鑽に頭の下がる思いです。 ・幼児、児童、生徒だけでなく保護者に対しても、先生方から多くの支援をいただき学びの場の提供していただけることは、大変有り難く、子どもたちの成長のためには非常に重要であると思われます。 ・昨今の社会情勢の変化の中で、特に保育、幼稚部の頃に保護者が子どもと共に落ち着いて学ぶことがなかなかできなくなっている中で、学校の内外へ保護者の学びの場として本校の教育活動の重要性を伝え続けて欲しいと思います。 ・進路指導について引き続きチーム支援の一機関として連携していきたい ・生徒夫々の個性に合わせ、きめ細かく真摯な対応努力には敬意を表したいと考えます。
2	本校では、聴覚特別支援学校としての専門性が十分に発揮されている。	88	A	
3	本校は「生きる力」を育む教育の推進を行っている。	84	A	
4	本校では、幼児児童生徒の健康や安全に対する指導が適切に行われている。	81	A	
5	本校では、重複障害の幼児児童生徒に対して、障害の特性に応じた適切な指導が行われている。	81	A	
6	本校の学習環境は、教育活動を進める上で十分に整備されている。	72	B	
	平均値	87	A	